

第22回日本臨床医療福祉学会

大阪医科薬科大学医学部リハビリテーション医学教室 佐浦隆一

第22回日本臨床医療福祉学会（会長：大阪医科薬科大学脳神経外科学教室鰐淵昌彦教授）は「尊重と融合～相互理解の上に～」をテーマに掲げ、9月下旬とはいえ、まだ真夏日の2024年9月20～21日に京都（ホテルグランヴィア京都）で開催されました。

本学会は南東北グループ総長の渡邊一夫先生が創設された「日本神経疾患医療福祉従事者協議会（平成14年）」が起点です。

2023年の高齢化率は29.3%（超高齢社会）となりました。高齢化は裏返せば少子化に伴う労働力人口の減少であり、医療・介護現場でも医師や医療従事者不足への対応は喫緊の課題です。

良質で安全な医療と福祉を提供し続けるためには、もう一度チーム医療・福祉の重要性を認識し組織やチームが一枚岩となることが必要であると会長は考え、この学会が専門領域や役割を超えた意見交換や議論の場となり、安定した医療と福祉の提供に役立つことを願い鋭意準備されました。

会長の空手道の師匠でもある島田洋一先生（医療法人久幸会常務理事）の講演、医師でもある秋野公造参

空手道の師匠 島田洋一先生（医療法人久幸会常務理事）を挟んで（中央）、右：鰐淵昌彦会長、左：筆者（佐浦隆一）



議院議員の保険診療への道と題した講演（胃がん予防のためのピロリ菌除菌の保険適用拡大）から本学の医事課職員や医療ソーシャルワーカーによる院内連携の一般口演（同僚であり発表は非常に新鮮でしたが、相互理解の上に尊重と融合ができていなかったことを猛省しました。）まで盛りだくさんでした。

第23回学会（会長：秋田大学脳神経外科講座清水宏明教授）は2025年9月に「地域に根差す医療福祉連携のコンセプトと実践」をテーマに秋田県秋田市で開催されます。

2040年頃を見据えた地域医療構想も発表され、医療・介護・福祉の連携強化とその実践は機を得たテーマです。ちょっと遠いですが、次回の学会への参加をご検討ください。

リハビリテーション・ケア合同研究大会 山梨 2024

山梨大学附属病院リハビリテーション科 谷口直史

リハビリテーション・ケア合同研究会 山梨 2024が2024年10月3～4日に甲府市の甲府記念日ホテル・常盤ホテルで、甲州リハビリテーション病院院長 佐藤吉冲先生を会長として開催されました。本大会は佐藤会長を筆頭に甲州リハビリテーション病院スタッフが一丸となり準備・運営され、1,381名の参加者を集め、盛会裏に閉会しました。

本大会のテーマに「地域リハビリテーション新時代いざ地域へ！」が掲げられ、地域リハビリテーションや能登半島地震の日本災害リハビリテーション支援協会（JRAT）の活動などをテーマとした12のシンポジウムが企画されました。特に地域リハビリテーションにおいては、情報通信技術の発達により地域的な制約や移動の困難を克服できる可能性があり、高齢者・障害を持つ方々が参加しやすい福祉の街づくりには行政との協力が必要であるとのメッセージが伝えられました。本大会は7つのリハビリテーション関連団体



会場入り口の飾りつけ

右：佐藤吉冲会長、左：筆者

（佐藤会長は日本リハビリテーション病院・施設協会副会長）が主催していることもあり、幅広い領域の演題が集まり多職種による熱い議論が交わされました。

来年度は2025年11月21～22日にリハビリテーション・ケア合同研究会 大阪 2025がマイドームおおさかで開催されます。テーマは「動いてナンボ！動かしてナンボ！—「動く」が支える 人・地域・日本—」です。大阪でも多職種による交流が期待されます。